

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午前 9時55分）

---

◎議案第27号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第2、議案第27号 平成28年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第27号は、平成28年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（企画観光課長 山本 公君 提案理由説明）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○1番（伴 高志君） 19ページ、改良費550万円で建物修繕とか、これは詳細な予定というのはどういうところでしょうか。

○議長（稲葉昭宏君） もう一度ページ数を言ってください。

○1番（伴 高志君） 19ページの建設改良費、工事請負費550万円、建物修繕他・・・。

○企画観光課長（山本 公君） 19ページの工事請負費の中で550万円の予算を取ってございませぬけれども、特に今、ここをやるということではなくて、発生した修繕が、その枠という形の中で予算措置をさせていただいてあるところでございます。

○1番（伴 高志君） まつぎ荘は、例えば避難ビルに指定されて、そういう観点からのいろいろ指摘もあったみたいなんですけれども、非常用発電があつて、それで緊急時の場合は発電があるので大丈夫ですということなんですけれども。その点に関しては防災の・・・、それは総務課の方になるかもしれないですけど、今後そういうことへの計画というか、そういうところもしっかり連動して行っていただきたいなという・・・、そういう意見も含めた質問だったんですけど、これに関しては以上です。

それから・・・、ちょっと待ってください。ちょっとページ数がわからないんですが、まつぎ荘の町内からの仕入れというのはどこになりますか、項目としては。

○企画観光課長（山本 公君） ちょっとこの中でどれだけということが出ていませぬので、26

年度の決算ですとか、27年度の状況の中で若干ご説明をさせていただきますが、食事材料、飲食材料あるいは売店材料あるいは消耗品のなもので、だいたい48パーセント位町内の方からの仕入れになります。合わせて重油ですとかガスですとか水道ですとか温泉ですとか、そういうものもございまして、もう少し多いというようなことになります。

業者さんの数ですと、26年度をみますと町内でだいたい75位の仕入業者がございまして、仕入れはそんな状況でございまして。

あと、職員なんかもいまして、職員の・・・、先ほど申しました給与手当ですとか、あるいは町内の仕入れですとか、そういうものを全体的にみていきますと、65パーセント位貢献しているというか・・・、そういうような状況がございまして。

○1番（伴 高志君） まつぎき荘という町営で振興公社に委託して行っている経営なんですけれども、このまつぎき荘が非常に町にとっては、町民の要望とか業者の要望をある意味叶えるという部分では非常に大きな役割があると思うんですよ。

それで、その経営の改善については、ちょっと詳細のところはちゃんと研究はしていませんけれども、だんだん回復の傾向にあるということだというのは・・・、そういう話は聞きましたけれども、これからももっともっとまつぎき荘を一つのきっかけとして、松崎町のもうちょっとアピールを行っていくというところでは非常に大事な位置にあると思います。

それで具体的な・・・、これは提案というか一つの意見として上がっていたので、ぜひこの場でお話したかったんですけれども。ふるさと納税の関係なんですけれども、今年度は3000万円という目標でやっていこうということで、これは歳入歳出の全体の37億円というところでみれば本当に0.1パーセントということで、やっぱり隣、西伊豆、南伊豆と比較すると非常にやっぱり目標が小さいのではないかという指摘がやっぱり非常にあがって、そういう声を日頃、町民の中からそういう声がありまして、確かに松崎町は業者で返礼品をお返しする・・・、そういうものが不足しているということがあるのかもしれないんですけれども。一つはふるさと感謝券という・・・、必ずしも特産品でなくても宿泊券だとかサービスだとか、要するに地元で使える商品券ということですよ。これをもっと力を入れた方がいいんじゃないかという声がありましたけれども、この点に関しては、具体的には今はどのような取り組みになっているでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） ふるさと納税につきましては、行政報告の中でもさせていただいたり、あるいは予算の審議の中でもいろいろさせていただいていますけれども、できるだけ魅力的な商品を提供できるように業者の皆さんとも・・・、当然業者さんというか町内のやっている方の協力をいただかなければいけないという部分がありますので、そちらの方の皆さんに

もやはりご理解をいただいて、多くのものを提供していただくというのがまずありかなと思っています。

西伊豆がやっている感謝券みたいなものについてですが、宿泊施設・・・、まつぎ荘についても宿泊券をやっていたり、あるいは旅館、温泉旅館組合の宿泊券みたいなものは既に実施していますけれども、よりメニューが多くなって魅力的なものが多くて・・・、多く寄附していただけるような形ができればいいなと思っていますので、また業者さん等の働きかけをしてまいりたいと考えています。

あまり金券に換えてしまうと、なんか本来の趣旨から変わってってしまうというような国の方の何 10 パーセントお得ですよとか、お金の換金されてしまうものについては注意もありますので、そのあたりは気をつけながらやってまいりたいと考えています。

○1 番（伴 高志君） 確かに課長のおっしゃる金券ということで考えれば、感謝券というのは、そういうことに当たるのかもしれないですけども、やっぱり・・・、本当に・・・、収入が少なくなってきたということと、それから移住交流人口を増やしていきましょう、こういう趣旨で考えていけば、やっぱり松崎町に来てもらうということが大事なわけで、そこで消費してもらって感謝券であれば、これは金券であっても目的にかなうと思うんですけどもいかがですか。

○企画観光課長（山本 公君） ですから、既にやっていないわけではないものですから、それは、そういう利用も考えながら・・・、ただ過度になってしまってもまた問題が起こりますので、そのあたりは十分注意をしながらやってまいりたいと思います。

いずれにしても、松崎町に来ていただくお客様が増えていただければ、町営の宿泊施設あるいはほかの方々の宿泊施設あるいは施設あるいは食堂とか、そういう利用も増えてくるということになりますので、こちらの方にできるだけ多くの皆さんに来ていただくような対応をしてみたいと考えています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2 番（渡辺文彦君） 18 ページですけども、ここに資本収支の中で営業費用のことが書かれているわけですけども、振興公社の委託料が 2 億 7000 万円あるんですけども、その振興公社の中に・・・。振興公社の内訳の中ですけども 22 ページ、振興公社の事業費の中で 400 万円の修繕費があります。

また元に戻ってもらって 18 ページなんですけども、振興公社委託費の下に 13 節修繕費、また 100 万円というのがあるんですけども、これはどういうふうに違うのか、ちょっと説明をお願いいたします。

○企画観光課長（山本 公君） 振興公社に盛ってあるイメージとすれば、小修繕・・・、小さいものの修繕をイメージしていただければよろしいかと・・・、建物本体とか大きいものについては、別のところ、町の方でやるということの中で 550 万円でしたかね。予算措置をしてあるところでございます。

○2 番（渡辺文彦君） その区別は誰が判断するんですか。

○企画観光課長（山本 公君） 管理を受託しています振興公社の方と町の方と協議をした中で、どちらでやるかということについては、相談して実施をしているところになります。

○議長（稲葉昭宏君） ちょっと申し上げます。

振興公社は結局町から委託を受けてやっている。ですから、その内容のことについては、公社の中に運営委員会があるわけですから、本来でありますと、その運営委員会の内容については、本会議の方ではあまり細部にわたっては・・・、ということなんですけど、今回はいろいろ質問があれば、今回だけはということで、課長の方に答弁をさせていただきますから、公社の内容のことについても言及して・・・、今回の場合は予算ですから許可をしたいと思います。よろしくをお願いします。

○5 番（藤井 要君） 今回 800 人ほど宿泊を増やすということですけども、今までですと、どここの共済組合とか・・・、あったわけですけども、今回これに関して目新しい、これを新しく新規にやるんだというようなことは、何を考えているんですか。

○企画観光課長（山本 公君） これまでもいろんなテーマというか戦略を掲げまして、実施してきたということについては、これまでもいろいろご説明させていただいたところでございます。体験を通じたメニューあるいはバリアフリーの施設をいかした PR あるいはネット関係、自動車学校への販促等をやっているわけですけども、これまでやってきた・・・、一度に何千人を増やすということはとてもなかなかできない一つの大きなものですから、これまでやってきたものをやはり着実に積み重ねていくしかないのかなと考えています。

営業の関係でいきますと、そういった社会福祉協議会なんかへの営業も加えたり、あるいは中小企業の勤労者福祉サービスセンターと、今度国民宿舎協会と契約をしていますので、そういうところへの PR、宣伝、セールスですとか、そういうものを実施したり、あるいは自転車の関係で、オリンピックも伊豆市の方で開催されるということの中で、そういう自転車に関する取り組みもしていきたいというようなことを挙げています。

これまでやってきたことをより積極的に展開をしていくというようなことでございますので・・・、いま申し上げたようなことは新しいことかもしれませんが、これまでやってきていることをさらにしっかりやっていくということで、「ゆこゆこ」なんかも平成 27 年から新

しい販売形態というような中でやっていますけれども、そういうものを加えながら進めてまいりたいと考えています。

○5番（藤井 要君） なかなか斬新なことを取り入れるということは難しいかもしれないですけどもね。まあ東京オリンピックの関係もちょっと出てきましたけれども、そういう外国人の方も西伊豆のあそこのホテルまで来ていますけれども、こちらまでなかなか外国人もみえないというようなことですね。

パンフレットも昔何とかとありましたよね。ほとんどいかされていない状態ですよ。そういう面も合せて、もっと対外的にPRをするということで、積極的に打って出てもらいたいなど・・・、それもあります。

そして二番煎じ・・・、先ほど言いましたけれども、よくあれですね。町の仕入れということも先ほど出ています。昨日ですか、私は石部の棚田の関係で常葉大学の若い人たちが来て、マルシェということで、いろいろ石部のおばさんたちが無農薬の物を作って、そこで売るなんていうことでやっていたけれども、仕入れの関係もそういうので、まつぎき荘がある程度頼んで、そして完全無農薬だというようなことで、これは二番煎じもありますけれども、1週間位滞在してもらって体の中をリフレッシュする。

松崎町には、健康管理のそういう人たちがいるわけじゃないですか。そういう人たちとメニューを組んで、長期滞在をやってもらうのも新しい企画になるんじゃないかと思っています。

そして、これは先ほどちょっと言いましたけれども、犬の関係なんていうのはちょっと施設がないですから、動物と泊まる宿なんてことはちょっとできないかもしれないですけどもね。なんかうまい具合にそういうふうにやればいいんじゃないかと・・・、私、これは提案ですけども、来年度の予算の中で新しい目玉を作って、お客を呼び寄せるということでは言いましたけれども、そのような関係、町長、やる気があれば、ちょっと回答をお願いしたいですけども・・・。

○町長（齋藤文彦君） クアオルト、クアオルトという言葉を使いますが、保養施設・・・、温泉と保養施設と運動というのはぜひ合せてやってみたいと思っています。

今、帰一寺の座禅とノルディックウォークというのが少し動き出してきたわけですけども。今コースを作れと言ってあるわけですけども、まつぎき荘へ泊まったら、やっぱり振興公社の施設をぐるぐる回れるようなコースとか、また施設に来た場合、まつぎき荘に泊まれるような方策を考えていかなければいかんかなと思っています。

まつぎき荘は温泉が豊富にあるわけですから、この温泉を使って本当に温泉に入って、また運動をして、保養して、本当に、昔とう留したみたいに1週間位泊まるようなことになればいいと思っているわけですけども。なかなかいかないと思いますけれど、今、ノルディックウ

オークと座禅と温泉ということをして・・・、まつぎき荘に一番似合うと思いますので、コースを作ってやっていきたいなと思っているところでございます。

○企画観光課長（山本 公君） インバウンドの対応なんていうお話も出ましたけれども、過去にパンフレットを作って、おもてなしの講座なんかをやったりというような経過もございます。

ただ、なかなか1町だけではできないということの中で、美しい伊豆創造センターの方でもインバウンドについての強化を図っていこうということがありますので、それらと連携した中で、やはりインバウンド、外からのお客さん、外国のお客さんをお迎えできるような態勢をとってまいりたいと思います。

土曜日の時にちょっと町内で写真を撮っていましたら、私の近くで写真を撮っている方がいて、なんか外国の方だなと思って見ていましたら、「どちらから来たんですか」と聞いたら「シンガポールの方から来た」というようなことで写真を撮ってあげたりしたんですけれども。そういう状況も見られていますので、その方は日本語ができる方でしたけれども、外国人だから外国語でという話ではなくて、そういう形のおもてなしもできるのかなというふうに考えていますので、引き続きそういうおもてなしの勉強をしたりとかしていきたいなと思います。

それから町長の方からもありましたけれども、温泉保養地ということの中でノルディックウォークですとか温泉を活用した施策ですとか、まつぎき荘もかかりつけ湯の協議会が入っていて、そういう取り組みもしてまいるということで考えていますし、あるいは食・・・、おっしゃられたように食を通じて健康な体をつくっていくというようなこともあるかと思っておりますので、今後は健康に関するそういう体験あるいは宿泊等も考えてまいりたいというふうに考えています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○3番（長嶋精一君） 私は、まつぎき荘が町営だろうが、民間だろうが企業体というのは、利益をださなければまずいと思っています。町営だから、地元から仕入れるから多少はいいだろうという考えは間違っていると思います。

町営の・・・、まつぎき荘側も努力するし、業者さんも努力するという形でないと私はまずいと思うんですよね。

それで、やはり企業というのは持続的な営業活動ですから、一番大切なことは低コスト経営に徹底することだと思うんですよ。前にも言いましたけれども、リーマンショック以降、3億6000万円の・・・、その前は3億6000万円位の売上があったのが急降下しているわけですね。だから、前年はいいい形でいくということはわかっていますけれども、これに安心しないで、やはり低コスト経営をやっていくということが必要だと思います。

そういう観点から 21 ページ、管理委託費明細書の原材料費、これは 6249 万 2000 円、率でいうと 44 パーセントということになっていますね。これは誰が試算した、計上した数字になっているんですか。それが 1 点。

それと、私は何回も言っているんですけども、結果管理じゃなくて現在進行形管理をやってもらいたいということです。決算の前の 2 月になって、こうですというのはもうまるでだめだよ。日々、日時、一日の管理、それが週次の管理、それが月次の管理、月の管理という形になっていく、当然これは荒い数字になります。だけど、その時点で支配人か誰かが、こういう状態だとみんなに鼓舞するということが大事だと思うんですよ。

だから、こういうシステムの構築をぜひやってもらいたい。課長は非常に難しいとは言ったんだけど、ぜひいただきたいと思います。民間がやっていることですから、できないことはないと思います。

当月の収支が来月の 3 日くらいまでにはだいたい荒い数字が出ると、前に言いました。私はこれにぜひチャレンジしていただきたいと思います。

今年度は非常にいい形でいって・・・、日次管理、月次管理ということをしっかりしていれば、おそらく 12 月頃・・・、1 月、2 月、3 月はこれでやるぞということで、ひょっとしたらプラスマイナスゼロの・・・、要するに実質利益を計上できたかもしれないと思うのであります。そういうところをもう一度課長に答えていただきたい。

それと最後に、朝食バイキングをやっている、65 歳以上 500 円ということをやっているんですね。私はいかがなものかなと思います。日本の個人の金融資産 1500 兆円、その 60 パーセントは高齢者なんですね。国は何とかこの高齢者の方々にお金を使っただけ、そして景気を良くしようということをやっているわけですよ。孫にお金を贈るには税金を安くしたりとか、そういう観点からやはり 800 円を 500 円にして、それだけの影響はないと思います、来た人にとってはね。

ところが受け取るわが方にとっては、300 円というのは大きいですよ、積み重ねると。私は町民の割引 800 円で私はもう上等じゃないかと思えます。

そして、それはやはり民間でやっている旅館・ホテルもあるわけですから、ほかにも。そういった人たち、そういった業者さんと比較してもやはりこれは公平性というか・・・、まずいんじゃないかなと思います。以上、3 点お願いいたします。

○企画観光課長（山本 公君） 町内仕入れなんかの関係お話をさせていただきましたけれども、地元だから言われるままということは当然ないわけでありまして、当然見積りを取れるものについては、見積りを徴した中で仕入れをさせていただいているということがございます。コス

トの削減を図るということは当然でございますし、収入を増やす、コストの削減をしながら収入も・・・、お客さんに来ていただくというような方策も考えていかなければならないかなというところでございます。

この食事材料費等につきましては、宿泊料と食事料なんかの見直しも・・・、料金の区分を見直しをして食事の充実を図っていこうというようなことがございました。これまで食事に対する評価がよくなかったという部分もありましたものですから、その中で宿泊料と食事料の区分、料金を少しずつ 500 円位ずつ動かして対応しているわけですが、だいたいこのくらいを目安に提供していこうというようなことでございまして、これまでの状況をふまえた中で作ってある数字でございます。

なかなか3日までに出るかという部分は確かにあるかと思えますけれども、できるだけ早く状況がわかることが当然必要であり、次の戦略を立てる上でも当然必要と考えていますので、どの程度できるかわかりませんが、できるだけ早めに結果を出していただいて、次の対策が打てるような・・・、といっても、何か月先という部分も当然みながらやらなければならない部分というのものもあるわけですが、そういうことを毎月1回やっている戦略会議の中で、協議をしていただくというような形でまいりたいと思います。

それから朝食バイキングの関係ですが、町民一般が 800 円でしたかね。高齢者が 500 円という形の中で割引がされていますけれども、町の皆さんにまつぎ荘を知っていただいて、利用していただくというような意味もありまして、料金設定を低くさせていただいているという部分もありますし、高齢者にとっては高齢者対策というんですか、シルバー対策みたいな形の中でやっているという部分がありますので、そのあたりはまつぎ荘の方とも相談をさせていただいた中で考えていかなければならないかなと思っています。

○3番(長嶋精一君) この原材料費ということですが、原材料費を削減すると料理が悪くなってお客さん離れが起きるという単純な考え方は間違っていると思う。素材をいかにいかしていくかということは料理人の腕なんです。いかにいかしていくか、そこに尽きるんですよ。それと商売の原理原則というのは、利は元にあるということは絶対忘れてはいけないんですよ。

したがって、ぼくは料理人だけに責任を負わせろということではなくて、前にも言いましたけれども、支配人とか副支配人、営業主任とか、そういう人と集まって、それと料理人だけじゃなくて、そういう人たちが集まって研究開発するわけですよ。

それで、あくまでも材料費が安くなったからお客さんが来なくなったなんて、それは全く見当違いだと思いますよ。

だから、そこら辺は単純に食事料がいくらだ、それに44パーセントをかけてやるということは、それは間違いですよ。だからしっかりと・・・、要するに内部の人たちが考えてチーキングをして、やっぱり原材料費の適正数字というのは選んでいただきたいと思います。

それとご老人の対策ということは、私は500円にするのを800円に戻したということで決してシルバー対策を怠っているというふうにはならないと思います。以上、私の方の意見は以上でございます。

○企画観光課長（山本 公君） 当然安くて良いものが提供できればいいわけですので、そのあたりも当然考えながら、これがあるからこれだという話ではなくて支配人、副支配人あるいは調理の主任が皆さんで集まって、できるだけコストをかけないでより良いものが提供できるような形の中で取り組んでいただければなと思います。

シルバーの料金については、私が今ここで下げるとか上げるとか、そのままいいとか上げますよというのは、振興公社の運営の中ということもありますので、またその旨お話があったということで、振興公社の方にはお話をさせていただきたいなと考えています。

○議長（稲葉昭宏君） 町長の方の答弁はよろしいですか。

○3番（長嶋精一君） 役場本体の町長と理事長を兼ねているわけですから、そういう考えと、それから支配人、副支配人、そういった人たちがフレキシブルな会話ができるような形にしてもらいたいと思います。固定化しない、フレキシブルな体制というものをぜひ構築していただいて実践的な形で運営していただきたいと思います。

町長、そのことについていかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 開業から3年間は黒字経営だったわけですがけれども、その後赤字に転落して、これは東日本大震災が重なったのもあるわけですがけれども。平成25年度は3600万円、26年度は2000万円、27年度は1300万円、今年度は800万円ちょっとということになって、最初の3600万円だった頃は、本当にどうなるかと思って心配したわけですがけれども、本当に支配人、副支配人また白井さんも中に入れてくれて、振興公社の局長も入ってまつぎ荘を良くしようと町といろいろ話し合っていていい方向に出てきたのが、こうやってだんだん、だんだん赤字が少なくなってきたのかなと思っています。

ぼくらが民宿をやっている頃は、本当に国民宿舎まつぎ荘は一つの灯台みたいなもので、家に帰る時、山本造船所の上でまつぎ荘を眺めると満艦飾で、やり方によっては、これはこういうふうになるんだなというも灯台みたいに思っていたわけですがけれども。その頃はやっぱり民宿の方も非常に多くて、まつぎ荘をやると民宿が減るから、まつぎ荘はそんなに流行らせるなということいろいろあったわけですがけれども。今、本当にまつぎ荘が松崎の観光

の灯台みたいな形になっていけばいいかなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○2番（渡辺文彦君） 先ほどの件でもう一回確認したいんですけども、まつぎ荘は振興公社に委託しているわけですから、運営管理は全部振興公社が責任をもって・・・、修繕においてもそうすべきだと思うもので、この18ページの修繕費というのは、振興公社の中に入れるということはできないんですか。できないなら、その理由をお願いしたいと思います。それが1点。

もう一つですけども、先ほどの原材料費のところなんですけれども、振興公社のところによって・・・、委託管理費の21ページですけども、食事、酒代、売店ところに予想原価率があって、その後ろに1.08という数字があるんですけども、この意味がよくわからないんですけども、この数字を説明してください。

○観光施設管理係長（舩津直樹君） まず、修繕の関係でございますけれども、もちろん振興公社の方で全てを予算措置するというのもできないことではないです。ただ、どこの指定管理をしている施設についても、大規模の修繕については管理者側、施設の管理者側、町が行う。小規模修繕については、指定管理の委託受託先が行うということがございます。

本来は、町の100万円の修繕というのがもっと大きくて、500～1000万円の修繕費をもっているというのが通常なんでしょうけれども、まつぎ荘の事業会計を今みていると、大変厳しい状況ですから100万円、それから4条予算の方で550万円をもっていて、公社の方と調整をしながら修繕を行っているというところがございますので、これをなしにしてしまうというのはちょっとあまり好ましくないのかなと思います。

それから、材料費のところの1.08というのは、これは消費税でございます。あくまでも指定管理料については消費税がかかってきます。この予算については消費税分を含めた予算になりますので、消費税をかけた金額という形で1.08が表示されているということになります。以上です。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

（発言する者なし）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑がないようですから、質疑を終結したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(稲葉昭宏君) 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○8番(土屋清武君) 平成28年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算であります。賛成するものであります。

皆さんご承知のとおり、一時、数年前はまつぎ荘は接客関係が非常に批判を受けた状態でしたけれども、指導も入ることによって最近ではそのサービスぶりが非常に良くなったというようなことで、町内にもそういう評価をする方が多くなってきたわけです。まつぎ荘運営自体がサービス業でありますので、各人員がその運営を自分自身が経営しているものだというようなことを肝に銘じて自分なりにサービスをするというようなことで進めていただければと思います。

この今回の予算につきましても、そのような運営等によりまして実質増えていい成績を収めようというような内容になっているように感じられましたので、賛成するものであります。

○議長(稲葉昭宏君) これをもって討論を終了します。

これより議案第27号 平成28年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

(挙手全員)

○議長(稲葉昭宏君) 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

---